

平成26年 認定特定NPO法人 びわ湖トラスト 会員の集い 報告

行楽シーズンまっただ中の秋晴れの2014年11月15日(土) 14:00から大津市浜大津の琵琶湖汽船乗り場にありす琵琶湖汽船集会室と喫茶キャピターノを会場として、「平成26年 認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト 会員の集い」を開催致しました。行楽客や観光客も入り交じる待合室は大混雑でしたが、琵琶湖汽船さんのご協力を得て、有意義な「会員の集い」を開催することができました。参加者は、講師の先生を含めて60人。



1部は講演会。元日本山岳会会長で、85歳の現在も医師としてご活躍の斎藤惇生先生の「山」の話と、滋賀県立琵琶湖博物館館長で、《酔牛》という俳号をお持ちの篠原徹先生の「湖」の話を聞きました。「山と湖」…大変興味深い話(ご講話の詳細については後の澤薫理事のレポート参照)でした。



第2部は交流会。昨年に続き、とことん【近江】にこだわりました。

- 【びわ湖の幸】として、高島市新旭の「鮎池元吉本」さん製の(鮎の山椒煮・大鮎の山椒煮・鮎のなれずし・鮎の昆布煮・えび豆・鮎の丸干し)。
- 【水源の森・山の幸】として高島市朽木の「山菜じゅうべえ」さん製の(シカ肉ボイル サラダ・シカ肉山椒煮・猪肉のいとこ煮・鯖のなれずし・落のとうの米粉シフォンケーキ・里芋の辛子和え)。
- 【鯖街道名物】の「鯖そうめん」を朽木の主婦グループ「丸八百貨店」製で。
- そして我がトラストの理事でもある山本宗五郎直々が打ち、湯がいた「トラストそば」。
湯がきたて蕎麦は大人気で、できあがる前からカウンターの前に行列ができていました。
- お酒も近江の地酒を揃えました。(旭日・松の司・大治郎・七本槍・初桜・浅茅生・みずかがみ・柚の天狗・萩の梅雨・一博・天井川)

食べるもの、飲むもの…、あらためて近江はなんて恵まれた国だろうと実感しました。これだけ美味美酒が揃うのはとりもなおさず「水」がおいしいのだ、と思います。この天からの恵みをやはりきちんと後世の人たちに残し、伝えていかねばならない…。それは今を生きている私たちの責務でもあると、強く思いました。

会の途中、山本輝彦理事のギターとハーモニカと歌の演奏で会場を盛り上げてもらいました。自己アピールしたい方たちからの自己紹介もあり、会は「HAPPY!COLOR!!」最後は全員で「琵琶湖就航の歌」を歌い、山本理事の三本じめで締めとお開きとなりました。



(報告 理事 西本椰枝)

「平成26年会員の集い」第1部「山と湖」講演会要旨

「山の話あれこれ」 元日本山岳会会長 斎藤惇生氏

ヒマラヤ山脈の標高 8,000m 以上の山々に登頂された時のご様子を美しい写真とともに熱く語っていただきました。また、近年増加している中高年登山者の遭難事故にも言及され、登山者の心得についてもお話、いただきました。

引き続き「湖から川を遡り田に入り鮎になる魚の物語～俳諧鮎鮎考」と題して滋賀県立琵琶湖博物館館長篠原通氏の話。近江を愛してやまなかった芭蕉と義仲寺の話に始まり、鮎鮎の素材となるニゴロブナの生態や、彼らを狙う漁師と鮎鮎を漬け込む農村部の人々との関係などを、俳諧・俳句を通じて紹介。蕪村が詠んだ鮎鮎の句が夏とされていることから、鮎鮎は夏の食べ物か、或いはいつでも食せる発酵食品か、謎は尽きないとのことでした。

(文責 理事 澤 薫)